

邦楽の祭典『北から南へ』 --- 市民芸術祭・みどころ(2) ---

北は北海道から南の沖縄まで、日本にはそれぞれの地域の美しさや特徴を綴った数多くの曲があります。

その中から選び抜かれた曲を邦楽で綴る2時間！

オープニングの北海道民謡から始まって、津軽三味線、箏と踊り、端唄と舞、吟詠と書を組み合わせた文団連では初めての書道吟。

最南端は箏と尺八で独特のリズムを奏でる沖縄民謡組曲。

最後に和太鼓の雄大な響きと静寂な音の重なりで、もう一度北から南へ一巡。

そして狭山へ・・・。

フィナーレは、初披露の新・狭山音頭！！

出演者全員が総力を結集して、会場の皆さんを巻き込みながら盛り上がり、終演を迎えます。日本列島を北から南へ、そして最後の狭山まで、大きな波はうまく狭山に到達できるのでしょうか。ご期待下さい！！

狭山市新舞踊連盟 藤寿 紫峰

琵琶のルーツ --- 豆知識シリーズ その10---

七福神の神様の中で女性の神様・弁天様（弁財天）がお持ちになっている楽器が「琵琶」で、弁天様の守り神は「にしき蛇」です。

琵琶の歴史は非常に古く、その源は遠く紀元前二世紀にアラビア・ペルシャ・インドで「ウード」、それがヨーロッパに伝わり「リュート」となり、シルクロードを経て中国に伝わり中国琵琶「ピバ」となり、日本には今から約1400年前に、盲僧琵琶として南九州に伝来しました。

京で盲僧琵琶（地神琵琶・笹琵琶）・平家琵琶・雅楽琵琶として栄え、750年前に島津の殿様が盲僧琵琶を薩摩の祈りの琵琶として保護しました。これが薩摩琵琶です。450年前にこの薩摩琵琶が改良され、島津藩の武士の教育に使われました。

明治になり、三味線をアレンジした筑前琵琶が生まれました。

薩摩琵琶の材料は桑の木。撥は大きい柘植の木。撥は時には戦う武器になったといわれています。桑の木が材質的に一番良いのですが、現在は桑の木が少なくなったため、櫻（ケヤキ）・タモなどの材料で造られることもあります。

筑前琵琶は桐の木でできていますので、琵琶でも音色が違います。

弦は絹糸で4弦・5弦があります。

正倉院には螺鈿紫檀（らでんしたん）で造られた綺麗な琵琶がありますので、チャンスがあれば見て下さい。

琵琶は「宗教音楽」「語り物芸能」「楽器音楽」として日本の音楽の中で生きている楽器ですが、あまり人々に知られていない楽器のようです・・・

機会がありましたら、琵琶の音色・琵琶歌などにも一度触れてみてください。

（自称 狭山の弁財天より）

